

当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所
解放新聞和歌山支局

〒640-8314
和歌山市神前 405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302

発行責任者
松本貞次

2014年度 部落解放人権行政確立要求和歌山県民集会

主催 部落解放・人権行政確立要求和歌山県実行委員会
部落解放同盟和歌山県連合会



県の真摯な対応を求める松本貞次・副執行委員長 (11/6)

全体集会では、主催者 解放・人権行政確立要求和歌山県実行委員会会長と松を代表して、田上武・部落

部落解放・人権行政確立要求和歌山県民集会「2014年度対和歌山県交渉」が、11月6日午後、アバローム紀の国でひらかれ、部落解放同盟の各支部や共闘団体から400人が参加。部落差別をはじめ、あらゆる差別撤廃をめざした人権行政の確立を県に訴えた。

あらゆる差別撤廃にむけて

本貞次・県連副執行委員長(11/6)が、和歌山県からは、下宏・副知事が代表でありさつした。

つづいて、藤本哲史・県連書記長による基調提案、平見良太・県連書記次長による行動提起がおこなわれ、その後4会場にわかれ、各部署交渉がひらかれた。

各部署交渉は次のとおり

■知事室 「県民の友」で部落問題についてふれられていない。今までは部落問題特集として識字学級などが掲載されていたが、県民に浸透していない。知事室としてさらに差別問題にとりくむべきではないのか。

■企画部・警察本部・公安委員会

2次交渉では基本要求をさらに絞って交渉していく。

■総務部

私立学校での差別事件

■環境生活部

部落の女性・青年は不安定就労が多く生活が苦しいことは把握しているとの回答をえた。若者サポートステーションが県下に3か所設置され、隣保館との連携もしていきたいと回答された。支部要求では、子ども会活動について予算の確保と支援を求めた。また、子ども会がない地域を県はどのように考え、とりくむのか、部落の女性・青年、子どもの実態を把握して、市町村と連携したとりくみを求めた。

■福祉保健部

隣保館について議論。参加者から、各部署で横のつながりについて話し合ってもらいたい。地域にとって隣保館は大きな存在。非識字者にとって市役所からきた手紙は難しい。貧困の原因は、部落の実態や課題、部落差別に起因する。かつらぎ町の6館廃止は納得がいかない。かつらぎ町の件は、県としても残念。町には隣保館にかわる施策を議論してきた。行政や地域の人が相談員になり、地域の目的にそった活用をすると聞いている。存続大前提で他の隣保館には全力で伝えていく。

■農林水産部

農業用施設(古和田・湯浅)の施設改修について、農水省とも話し合い、補助事業とするよう働きかけ、2次交渉で再度回答をもらうようにしている。

支部要求について、各支部から磯根漁場再生事業や採貝者の漁業権の問題について、今後も事業を継続して実施できるようにと取り組んでいくと方向性が示された。さらに、農業用水路、ため池、農業施設の育成、共同利用農機具の導入など部落の厳しい実態をふまえて、早急に対応すること求めた。また、就労の場として稼働している大型共同作業場の(つぎは次頁に)

頑健

今年、新幹線が開通して50年になる。戦後間もない頃、めまぐるしく復興と経済発展のなか、時代に乗り遅れた当時の国鉄は存続の危機に立たされていた。その国鉄を救ったのが「新幹線」構想である。1957年5月、鉄道技術研究所の講演会で、三木忠直は「東京・大阪三時間構想」を説いた。当時、特急で7時間以上かかっていたのである。▼新幹線を誕生させた技術者の中心が、三木忠直(車輛)、松平精(乗り心地・安全)、河鍋一(ATC)の三人である。実は戦前、三木と松平は海軍、河鍋は陸軍の技術者であった。三木や松平は「ゼロ戦」や「銀河」などの戦闘機や爆撃機の設計にたずさわっていた。とくに三木は、車輪のないロケット特攻機「桜花」を設計していた。戦後、請われて国鉄の技術研究所に身を投じて、GHQの公職追放で失職する。その彼らが、国鉄の危機的状況のなかで呼び戻されたのである。▼三木忠直は、自身が設計した特攻機で多くの若者の生命を奪ったことに自責の念にかられ、彷徨の果てにクリスチャンになって救いを求めたという。松平、河鍋も同様の思いであった。そして、1946年の開通まで7年間、不眠不休の格闘がはじまった。そして当時、世界の最先端をいく技術と多くの人のびとの努力によって新幹線が開通したのである。▼三木は「すべてやりつくした」として開通をまたぎ退職、テレビで開通をみた。晩年「とにかくもう戦争はこりごりだった。自動車にいけば戦車になる。船舶にいけば軍艦になる。飛行機にいけば戦闘機になる。いろいろ考えたら鉄道は平和利用しかない」と語っていたという。(S・I)